

「土岐市観光振興計画（素案）」に対するパブリックコメントの実施結果について

No.	ご意見	回答・市の考え方
1	昨年 9 月に結婚し、土岐市に家を買ひ名古屋から引越してまいりました。生まれは岐阜市です。これからは第 2 の故郷として土岐市の発展を望んでいます。年齢は 33 歳、若者よりの意見かと思ひます。素案を拝見しまして多くの疑問・質問が浮かびましたが、私が考えるレベルはどうに議論の上での素案と理解しております。私の土岐市のイメージは「アウトレット」のみです。その他のグルメ・施設・イベントについては全く知りませんでした。地元以外の人間（特に若者）は、この程度だと思ひます。ましてや、核融合科学研究所なんて・・・「魅力（観光資源）」を見て、こんなにあるんだ。と思つたと同時に、まつりが多すぎる。食・グルメがどれもどこにでもありそうなものばかり。という印象です。そして地図で確認して、どれも遠いなと思ひました。話がそれましたが、素案についてのコメントを 2 つさせていただきます。 1 つ目は SWOT 分析についてです。リニアの中津川駅開業は、「機会」ではないと思ひます。むしろ「脅威」と成りえるのではないのでしょうか。とはいえ中津川駅でさえ、新幹線「岐阜羽島駅」のようになると感じますが。 2 つ目は「年代別の施策」です。分析に訴求ターゲットとしてはありますが、各施策に誰をターゲットとしているのかがありません。棲み分けも必要かと思ひます。名古屋の大須はかつて昔ながらの商店街でした。しかし高度経済成長とともに電気街へと姿を変え、今はファッション街となっています。土岐市も「陶器」からのある程度の脱却・変革、ファッションとの融合などが必要ではないのでしょうか。	ご意見ありがとうございます。 1 つ目のご指摘の SWOT 分析につきまして、リニアにつきましては名古屋都市圏等から首都圏へのストロー現象も懸念されており、ご指摘の通り「脅威」にもなり得ると考えております。ただし、土岐市はまだ観光面においては発展途上であり、現時点では、観光客が流出するという懸念以上に、より多くの方々が来訪されるという期待感を持って、誘客に向けた取り組みを推進すべきだと捉えております。また、リニア中央新幹線は 2027 年に開業しますが、本計画は 2022 年までの 10 年計画です。この 10 年の間、駅が建設される中津川市を中心としたこの東濃地域は、全国的に盛り上がりを見せるであろうリニア沿線地域の一つであり、リニア開業を見据え、土岐市においても首都圏から多くの方々に立ち寄ってもらえるような魅力ある街づくりのきっかけとして、リニアの開業を「機会」として位置づけております。 2 つ目のご指摘の「年代別の施策」につきまして、ご指摘の通り年代別のターゲット設定は重要と捉え、p21 に観光資源別に年代を含む層別のターゲット設定をしております。各施策にはターゲット設定をしておりますが、施策を推進するため各主体が実施していく個別取組において、適切なターゲット設定がなされていくものと捉えております。なお、陶器からの脱却・変革、ファッションとの融合につきましては、例えば「織部ヒルズ」において、陶器と雑貨、衣料品等、女性をターゲットとした生活スタイル全般をコーディネートする店舗も散見され、陶器を核とした新しい小売形態が芽生えています。このような事例を参考としながら、市内全域で新しいニーズを取り込めるような取組を推進していきたいと考えております。